

北信のスノーフィールドで楽しもう 斑尾高原スノーシュー&スキー

実施日 2020年3月1日(日)～2日(月)

天候 3/1曇時々晴れ・3/2晴時々曇り
風無し

リーダー 伊藤 久雄

参加者 石附智江、山崎富美恵、中村友子、伊藤久雄、徳山敬子、佐藤聡美、阿部みゆき 計7名

費用 JR 16,500円(東京起算新幹線)
宿泊費9,700円 合計26,200円

タイム 3/1 飯山駅(30電車)まろうど
(11:00)希望湖入口(12:00)希望湖(14:10)浄水場(14:20)まろうど泊
3/2 まろうど(8:00-8:15)
登山口(8:30-11:00)袴岳(11:00-11:50昼食)
登山口(14:10)

3/1 去年のスノーシューは積雪が30センチとギリギリでしたが今年は台風により被災された方々を応援するという意味も込めて豪雪地帯の斑尾高原にしました。しかし此方も雪は少ないと言う事でしたが希望湖の周りは1m位、袴岳は2m以上は有りそうでした。

宿の車で10分ほどでスノーシューフィールドに着く。準備をし早々に出発する。



初めはメインコースのリスコースを歩くと少し少しくまコースに分岐し目印に

沿って歩く。目印がしっかり有るので迷わずに歩ける。多少のアップダウンを繰り返しながら車道を横切り徐々に下っていくと真っ白な平原が現れる。希望湖である。丁度お昼時になったので雪に覆われた湖面を見ながら各々持参した美味しそうな昼食を食べたりぜんざいを食べたりしてひと時を過ごした。



さて対岸に渡るのだが誰が先頭に行くか「リーダー、リーダー」の合唱ハイ分かりました。雪は10センチ程しか無くその下はやや湿った氷になっている。周りには沢山の足跡が有るので歩き始めるが暫くは遠巻きにして眺めている。

10分ほどして対岸に着き少し登り返すと雪に覆われたテニスコートに出る。

此処は木が無いのでパウダースノウでフカフカだ。道に沿って下っていくと車道に出た。積もった雪に大きな穴が開いているので覗くと1m位下にマンホールの蓋が見える。道に沿って幾つか有る。何だろう？

獣の足跡を見つけながら道に沿って下っていくと沼野原湿原の看板が現れ道を間違えた。300m程下ってしまった。

すぐ登り返して除雪して黒いコンクリートが出ている所に出た所で丁度車が迎えに来てくれたので早々に乗り宿に戻った。夕食ま

での時間はたっぷり有るのでお風呂に入ったり陽ざしがたっぷりそそぎ温室のようなり



ビングで一杯やりながら過ごした。夕食には鍋が出てこれがまた絶品の味付けで山菜、キノコ、つみれ、グレと言う珍しい魚等が入っていて大変美味しかった。グレの刺身も美味しかった。

3/2 宿の息子の大ちゃんに今日の子の予定の斑尾山について色々情報を提供してもらったところ山頂から万坂峠へ下る尾根はかなり傾斜がきついと言う事でしたので中止にし袴岳1か所に変更した。車は



15分位走った万座峠少し手前を右折して止まった。其処までは雪は全く無かったがそこ

から先は1.5m程雪が積もっていた。

其処から西に15分程山を横切ると袴岳の登山道にぶつかる。其処を今度は北に向かって直登する。直ぐに背中が濡れてくる。暫く登ってから傾斜もきついのでジグザグに登って行く。後ろを振り返ると斑尾山とスキー場が見える。滑っている人は少ないようだ。三つほどピークを越え四つ目のピーク

でやっと頂上に着いた。宿の息子さんと同じ位の2時間半のタイムだ。こぶし会の女性は元気だ。100歳は超えそうだ。

180度の展望、懐かしい火打、妙高、黒姫山等の名だたる山々が見渡せる。ま



ず集合写真を撮るのだが雪がフカフカでカメラをセットしてタイマーを押して戻ってUターンしてカメラに収まるのは大変だ。何度か



駄目出しの後ようやくOKが出て昼食にする。贅沢なひと時を過ごした後下山開始。下

山途中斜面が急な所では童心に帰って尻スキーを楽しんだ。途中で宿に電話をかけ迎えに来てもらい「まだらお温泉」に浸かり宿に戻った。

16時の新幹線では忙しなないので次の18時にして家路に着いた。



連日暗いニュースが続き滅入っていたがそれを忘れさせてくれた楽しい二日間でした。参加された皆さん有難うございました。

(記&写真・伊藤 久雄)